

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第6号

令和8年8月31日（月）発行



「一人一人の力を引き出す2学期に」

校長 工藤 博也

今夏の甲子園では、大会屈指の好投手である横浜高校・織田選手を打ち崩した智辯和歌山高校の楠本選手が、175キロのマシーンで練習していたことが話題になりました。いくら練習で慣らしたとはいえ、プロでも通用しそうな150キロを超えるストレートをホームランにする対応力には、ただただ感心するばかりです。若者の可能性を強く感じる夏休みとなりました。

恵那西中の生徒たちも、多くの場面で素晴らしい活躍を見せてくれました。中体連剣道県大会では、高い集中力を保ち、一瞬のスキを見逃さず技を繰り出す姿に魅了されました。一本を取った時の流れるような美しさは痛快でした。「中学生と未来を語る会」では、生徒会メンバーが議場という特別な場で緊張をはねのけ、見事な連携で恵那市の伝統継承について語ってくれました。中学生英語スピーチコンテストでは、「生徒の力は本当にすごい」と改めて感じました。自分の主張を文章化し、それを英訳し、ほぼ原稿を見ることなく英語でスピーチする。そのうえ、笑顔や身振り手振りを交えながら堂々と話す姿は圧巻で、心の中で思わず「あっぱれ」と叫びました。いずれの場面でも、生徒たちは事前に納得いくまで粘り強く準備に取り組み、同じ思いで挑戦する仲間と切磋琢磨しながら力を高めてきました。こうした経験は、きっと大きな財産になったことでしょう。このほかにも、西中生の活躍は数多く届いています。どの場面でも、素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれたことと思います。

さて、2学期が始まります。私ども職員は、このような大きな可能性を秘めた生徒たちと学校生活を共にできることに、わくわくした気持ちでいっぱいです。誰もがこうした可能性を持っていることを忘れず、生徒一人一人に寄り添い、伴走者としてその力を引き出していけるよう取り組んでまいります。引き続き、ご家庭の皆さまにもご協力をお願いいたします。

■■■中学生が示した当事者意識■■■

8月7日の朝日新聞デジタル版に、上天草市の中学生が、ガラス片に注意しながら災害ごみを仕分けする姿が紹介されていました。今回の熊本地震では、中学生を含む多くの若者が被災者の立場を第一に考えながら、災害ごみの整理や避難所支援に取り組む様子が報じられています。前回の命を守る訓練で「当事者意識」について触れましたが、安全を最優先にしつつ、正確な情報を得て、自分にできる範囲で地域を支えようとする若者の姿は、まさに有事の際に求められる行動であり、社会の担い手として期待されるものです。

このたびの熊本地震及び各地の豪雨災害により被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興と、皆様のご健康をお祈りいたします。

